

学校教育目標	1 進んで学ぶ生徒 2 心豊かな生徒 3 心身共に健康な生徒
目指す学校像	力がつく学校 力のある学校 感動いっぱい 与野南中 ～生徒・教職員・保護者・地域～

重点目標	1 基盤となる生活面の安定と学びの自律化と個別最適化 2 生徒一人ひとりと関わる生徒指導と教育相談の充実 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 安心・安全の保障と学校事故の防止 5 教職員の持続可能な働き方と資質の向上
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価						学校運営協議会による評価	
年度目標						実施日令和8年2月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・英語の、全国、市平均と比べ、概ね良好である。考えたり表現したりすることにも積極的である。(課題) ○「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」の研究を進捗させ、本発表すること。基礎・基本の徹底、既習事項を活用して思考を深めさせ、学び方の学びの両立もまた課題である。	・個別最適な学びの実践と、学びの自律化 ・GIGAスクール構想を活用したアクティブ・ラーニングの推進	①知識・理解の定着・向上と学習の習慣化のため、教科ごとにテストの復習を行う。 ②研究推進委員会を中心として定期的に教科部会を実施し、TDL、リーディングDXの取組について全教科で協議、改善を進める。	①毎回テストの復習を行い、本テストとの結果の定着度はあるが向上している。 ②各教科でTDLを導入し、リーディングDXの活用し、探究的な学びを意識した。	①毎回テストの復習を実施し、本テストと結果比較し、教科差はあるが向上している。 ②研究推進委員会が中心・指導的な立場で活動、各教科で研究を進め、11月下旬に研究発表を実施できた。	B	①テストの復習は継続実施、本テストとの結果比較を指導に活用する。 ②研究推進委員会が中心・指導的な立場で継続し、TDLへの保護者の理解が進むような啓蒙活動、各教科での研究継続をする。
			①安全・安心のもとで発言できる雰囲気醸成するため、学級や教科における話し合い活動を充実させ、目的意識と当事者意識をもった思考、活動を経験させる。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向け、デジタル教科書やICT機能を活用した授業により、生徒の学び方の学び改善につなげる。	①協働的な学びとしての話し合い活動を学級で行事に合わせて1本、各授業で学期に3本以上実施する。 ②学校評価「自分で考えたり、周囲と話し合ったりしている。」の項目で肯定的な回答が生徒95%以上となったか。	①各学級において協働的な学びとしての話し合い活動を行事に合わせて1本以上、各授業で学期に3本以上実施できた。 ②学校評価「自分で考えたり、周囲と話し合ったりしている。」の項目では、生徒93%が肯定的な回答をしている。		
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 (現状) ○多くの生徒に落ち着きが見られ、問題行動はほとんどない。地域・家庭の教育力もあって、見守り・見守られ意識が高い。学年が進むほど休みがちな生徒が多くなる傾向にある。 ○Solara一むやオンライン等を利用している生徒が、学年が進むほど多くなる傾向にある。(課題) ○教職員の生徒に係る意識は高いが、対応の甘さを感じられるときがある。 ○個別の状況を把握し、関係機関との連携を含め、しっかりと対応する必要がある。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒指導の充実 ・生徒一人ひとりによりそった教育相談の充実	①毎学期心と生活のアンケート後の個別面談や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ②生徒指導委員会と教育相談委員会と教育相談委員会は計画的に活動し、組織的な対応を行う。	①生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ②生徒指導委員会と教育相談委員会は中心・指導的な立場で活動してきたか。 ③学校評価において、肯定的な回答が生活面の項目で生徒90%以上、保護者85%以上、生徒指導の項目について教職員から88%以上となったか。	①心と生活のアンケート後の個人面談を効果的に活用し、生徒一人ひとりに寄り添った相談を担当や組織で丁寧、迅速に行うことできた。 ②生徒指導委員会と教育相談委員会が中心・指導的な立場で活動し、学年、学校運営に生きていた。 ③生活面の項目で生徒87%、保護者83%、生徒指導について教職員100%の肯定的な回答となり、昨年より一人ひとりと関わることができた。	B	①面談等から生徒の実情を把握、経験や助言から分析、対応方法を決定し、組織で取り組み、個に寄り添って指導する。 ②学習指導のベースとして、生徒指導委員会と教育相談委員会を中心・指導的な立場で活動させることを継続する。
			①Solara一むの組織的な運営による多様な生徒への適切な支援を行う。 ②Solara一む、オンラインの利用については、学期ごとに生徒、保護者と面談し、対応、学期の目標等を決めて支援を行う。	①生徒、保護者、教職員の連帯のもと、個々の学びを検討し、適切な支援をしたか。 ②学校評価において、相談等の項目で肯定的割合が、生徒90%以上、保護者80%以上、教育相談の項目について教職員から90%以上となったか。	①生徒、保護者、教職員の連帯のもと、Solara一む等利用の個々の学びを学期ごとの面談を通して概ね支援できた。 ②学校評価において、相談の項目で生徒74%、保護者67%、教育相談の項目について教職員から97%となった。保護者の回答には、「わからない」が20%あるので課題とする。		
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○学校運営協議会も7年目を迎え、生徒が地域で活躍する場面も多くなってきた。また、PTAや後援会、育成会からの応援や肯定的な声も多く聞かれる。(課題) ○学校運営協議会の中で、地域と生徒と一緒に活動できることについての十分な熟議を行う。熟議に生徒会や教員が参加できる場を設定する。 ○学校からの情報発信に加え、普段の学校を実際に目にする機会を多く設け、地域・学校間交流の活性化を進める。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの充実 ・たよりやHP、安心メール等を活用した発信と教育活動参観の機会設定	①地域の方々からの学校理解を深め、関わりを多くするために、新たな取組を創出する。 ②学校教育の一貫性を担保するために中学校区小学校との連携を強化する。	①学校運営協議会の前に十分な準備を行い、熟識に生徒会本部役員や教員が参加できた。地域清掃活動等を実施できたか。 ②児童の把握のための兼務教員派遣と小学校の情報共有ができたか。校区4校校長会を定例化できたか。	①学校運営協議会前に校長が生徒会役員と話し合い、学校運営協議会につなげる工夫をした。民生委員・主任児童委員連絡会を1・2学期の終業式に開催した。地域のボランティア活動にも参加できた。 ②3小学校に兼務教員を派遣、児童把握に努めることができた。校区4校校長会を定例化はできず、行事に合わせて実施した。	A	①学校運営協議会へ生徒会・教職員の参加を継続する。民生委員・主任児童委員連絡会の年2回も継続する。地域活動のあり方の模索を継続する。 ②児童の把握のための兼務教員派遣と情報共有を継続する。校区4校校長会を継続、会場の持ち回りを継続する。
			①学校HPの定期的な更新や、毎月のたより等により、学校からの情報発信を積極的に行う。 ②学校運営協議会の様子を知らせるC・Sだよりを発行し、学校・保護者・地域が一体となった活動をする。 ③学校教育活動の参観、公開を適宜実施する。	①学校評価の情報発信の項目で保護者肯定的割合が87%以上となったか。 ②「C・Sだより」を学校HPにアップし、活動を地域へ伝えることができたか。 ③毎学期、保護者の学校への来校機会(南中OS)を設定できたか。	①スクリレの導入により、保護者の肯定的な回答は、93%に向上した。今後もスクリレを継続し、さらに学校HPも定期的に更新する。 ②「C・Sだより」を学校HPにアップし、活動を地域へ伝えることができた。生徒会も朝礼、生徒会だよりで発表し、全校生徒へもPRした。 ③毎学期、「南中OS」を月2回設定し、保護者の来校機会を増やすことができた。		
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○毎月の安全点検により施設・設備の安全点検を漏れなく行い、迅速な修理にあたっている。 ○体罰・暴言・不適切な指導の発生については昨年度は1件、指導にあたっての教職員の言動について保護者からの指摘が2件あった。 ○SNSに関わる生徒指導が4件発生した。(課題) ○教職員の安全に対する意識は高いが、詰めの甘さを感じられるときがある。 ○SNSについては多くの者が安全意識を高く持っているが、しっかりと対応する必要がある。	・教職員の安全に対する意識の向上と実践 ・生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	①会計事故防止のため、学年会計で全学年統一様式のものを使用し、監査も定例化する。 ②安全点検を定期的実施し、併せて学期ごとに全体の点検を定例化する。 ③ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を実施する。	①会計事故の未然防止を具体的に、遺漏なく監査報告に至ったか。 ②月1回の安全点検と学期ごとに全体の点検を行えたか。問題箇所への即応をしたか。 ③職員会議、校内研修会等の機会にハラスメント防止の研修会を実施できたか。	①校内監査を学期ごとに実施したため、監査報告は年2回実施できた。 ②月に1回の安全点検を実施でき、問題箇所へ概ね即応できた。学期ごとに事務職員を含め、修理等の検討できた。 ③職員会議でハラスメント防止のための研修会をした。	B	①今後も学年会計の監査は、年2回の実施を継続する。 ②毎月の安全点検実施と学期ごとの見直しを継続実施する。 ③ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を継続する。
			①特にSNS等に関わる生徒指導の未然防止のために、警察主導の安全教室やSNS安全教室等を実施したか。問題発生時に直ちに対応したか。 ②「いじめ防止」に取り組み、周知・徹底したか。突発的な事象にも集即座に対応したか。案件の週越えは防ぐことができたか。	①警察主導の安全教室やSNS安全教室等を実施した。大きな問題発生はないが即応体制は整えている。 ②いじめ防止の記事を6月号学校だよりに掲載した。突発的な事象に生徒指導主任主導で学年教員が集会による指導も実施した。個々の案件にも対応している。	①安全教室やSNS安全教室を継続的に実施する。発生時の即応体制を強化する。 ②いじめ防止記事の掲載は継続。個々の案件への即座体制も維持。		
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 (現状) ○市委嘱の研究「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」と文科省のリーディングDXの研究に取り組む。TDLも含めた授業力アップに学校を挙げて取り組む。 ○教員の在籍時間数はICT利用により減少した。多忙感は相変わらずであるが、多くの教職員は職場環境を肯定的に受け止めている。(課題) ○「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」の取組強化しつつ、リーディングDXを含めた研究を進める。 ○教職員の計画年休の取得を促進する。	・教職員の資質の向上に関する取組 ・教職員のワーク・ライフ・バランスの推進	①研究の本発表に向け、TDLを取り入れた計画的な授業実践を行う。市教委、他小中学校、外部機関等との連携による研究体制整備を行う。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。	①研修会を月1回開いたか。「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」に関わるTDLやリーディングDXを意識した実施できたか。 ②職員個々が計画した自己評価シートにおける「研修」が予定通りに進められたか。	①研究発表に向けて研修会を月1回実施できた。新たな授業スタイルとして、単元内自由進度学習の手法を取り入れたTDLを全教科で実施した。 ②教員へ研修への助言は自己評価シートに基づく面談時に話せた。結果として80%以上、目標が達成を実感できた。一定のアドバイスは行ったと認識している。	A	①本発表に向けて研修会の月1回実施を継続する。教科の特性に合わせたTDLの全教科での実施を継続する。「自己評価と相互評価」、「リーディングDX」の研究を進める。 ②教員に向けた研修会や事例を紹介し、学びの機会を増やすことは継続する。
			①疲労回復と視野を広げるための機会とするために、計画年休の取得を促進する。 ②働き方改革の取組の一つとして、関係小学校と同様に勤務時間までの電話対応やスクリレの導入をする。	①学年内で話し合い、計画的な年休取得とその間の体験の共有を行えたか。積極的なコミュニケーションによる危機等の早期発見と対応をしたか。 ②働き方改革の取組について、地域・保護者に情報を発信したか。	①個人差はあるが、計画的な年休取得は不十分だが、労働時間短縮はできた。 ②勤務時間までの電話対応、スクリレの導入により印刷時間の削減には繋がった。		

